

1 日時・場所 平成27年10月27日(火) 第5校時 武道場(男子23名 女子15名)

2 単元 「Let's tell James about Japanese cultures.(Unit 4 Homestay in the United States)」

3 単元の目標

- (1) 各国の文化の違いから生じる生活習慣やルールを調べ、それを相手に伝えようとする。
- (2) 新たに習う助動詞の表現方法を理解し、それを使った英文をつくることができる。
- (3) 題材の内容を理解し、異文化圏での意思疎通のあり方について理解することができる。

4 単元のとらえ方

#### <こんな生徒たちを・・・>

- ・グループ活動で教え合ったり協力したりして英語の学習を進めてきた生徒
- ・発音練習やコミュニケーション活動に楽しさを感じ、積極的に取り組むことができる生徒
- ・全体の前で発表することが苦手であり、既習の表現を自主的に活用したいという意欲が見受けられない生徒

#### <ねがいは・・・>

4月からグループ隊形で授業を行っている本学級の生徒は、分からないところや自信がもてないところを教え合ったり協力し合ったりしながら学習を進めてきた。それによって、英語の理解が深まり、挙手発言を進んで行うようになった。また、コミュニケーション活動にも前向きに取り組む姿勢が見られ、教師の提示した活動や取り組みの中で英語を使う楽しさを感じる生徒が増えてきた。しかし、自主的に英語を使って何か活動をしたいという意欲をもつ生徒はほとんどいない。そんな生徒たちに、実際の場面を想定した活動の中で既習の表現方法を用いて相手に伝える楽しさを感じさせ、自主的に英語を使う意欲を高めさせたい。

#### <この単元は・・・>

本単元では、米国でのホームステイの体験を題材としている。家庭内のルールに従うという基本原則、ホームステイ中に起こり得るトラブルとその解決方法について知ることを通して、相互のコミュニケーションの大切さ、楽しさ、難しさについて考えさせたい。

また、本文と基本文を通して、新たに助動詞 **will** や **must** と **have/has to** の文の形、意味、用法を理解し、表現できるようにしていく。助動詞 **will** と **must** は、既習の **can** と文の形が同じであることに気づかせて、意味や用法を身につけさせたい。そして、**have/has to** については、人称による変化、発音に注意しつつ、**must** を学ぶときには肯定文と否定文の意味の違いに留意するように指導したい。

#### <こんな手立てで・・・>

学級の中に市の中学生派遣事業で今年度の夏休みにアメリカでホームステイを体験した生徒がいる。その生徒の体験談を聞いたり写真を見たりすることで異文化理解への興味を深めたい。その興味を英語学習へ結びつけるために、単元のまとめで日本とアメリカとの違いについてALTに教えることを伝え、実際に教師がモデルを見せる。グループごとに発表するテーマを決め、アメリカと日本の文化の違いについて調べる場を設ける。そして、次の約束事を通して発表する。

- ・本単元で習う文法を少なくとも一文以上使うことと各生徒が二文以上の英文を発表で話すこと。
- ・説明をするときには、写真や実物を使うなど、発表の仕方を工夫して英文が難しくならないようにすること。
- ・グループごとの発表時のめあてを設定すること。

今回の発表を通して、自分たちの英語がALTに理解される喜び感じることで、生徒に自信をもたせて今後の活動の意欲を高めていきたい。

#### <こんな生徒たちに・・・>

- ・グループの中の自分の役割に責任をもち、協力しながら英語学習に取り組むことができる生徒。
- ・異文化について興味をもち、積極的に調べようとする生徒。
- ・助動詞の表現を用いた英文をつくることができ、それを全体の前で表現力豊かに発表することができる生徒。

5 単元構想図（14時間完了）

導入「伝えたい日本文化を考えよう」

生徒の活動	教師の支援・手立て
<p>第①時 中心技能：聞く</p> <p>「伝えたい日本の文化についてのテーマを決めよう」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>夏休みにアメリカでホームステイをした生徒から驚いたことについて話を聞く。その時に、アメリカで撮影した写真を見ることで、文化の違いに興味をもつ。</li> <li>教師のモデルを見ることで発表のイメージをもち、発表に向けて意識を高める。</li> <li>グループで話し合っ、発表のテーマを決める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教師が単元の最後に行う発表のモデルを提示することで、生徒たちの目標の明確化を図り、イメージしやすいようにする。</li> </ul>



基礎・基本「基本表現を学ぼう」

生徒の活動	教師の支援・手立て
<p>第②③時 中心技能：読む、書く、話す</p> <p>「have to / don't have to の用法を知ろう」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>have to / don't have to を用いた文の形・意味・用法を理解する。</li> <li>have to / don't have to を使った英文を作り、友達に伝える。</li> <li>ホームステイのあり方や注意すべきことを知り、ホームステイに興味をもつ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>have to / has to を用いた肯定文と否定文の意味をしっかりと理解したうえで、この表現を使った英文を発音したり、英文を作ったりすることで、定着させる。</li> </ul>
<p>第④⑤時 中心技能：読む、書く、話す</p> <p>「will の用法を知ろう」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>will が未来を表す助動詞であり、既習の can と同じような文の形になることを理解する。</li> <li>will と be going to の文の形・用法の違いを知り、英文を作って友だちに伝える。</li> <li>ホームステイ先で起こりうる意思疎通のミスについて知る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>will は助動詞であり、疑問文と否定文の形が can と同じようになることを伝える。must を学習するときにも一貫した説明をすることで、理解しやすくする。</li> <li>will と be going to を比較し、文の形と用法の違いを確認させる。</li> </ul>
<p>第⑥⑦⑧時 中心技能：読む、書く、話す</p> <p>「must / must not の用法を知ろう」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>must が義務・命令を表す助動詞であり、will と同様に can と同じ文の形になることを理解する。</li> <li>must と have to の肯定文と否定文の形と意味を比較し、must を使った英文を作って友だちに伝える。</li> <li>ホームステイ中に文化の違いから生じる問題とそれを解決する糸口を知る。</li> <li>ホストファミリーへの苦情に対する先生の答えについて知る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>must は助動詞であり、疑問文と否定文の形が will と同じになることを伝える。</li> <li>must と have to を使った否定文を比較し、意味の違いに気づかせる。</li> <li>たくさんの英文を can / will / must を入れ替えるだけで意味の違う英文ができることに気づかせる。</li> </ul>



発展「ジェームズ先生に日本文化を伝えよう」

生徒の活動	教師の支援・手立て
<p>第⑨⑩⑪⑫⑬⑭時 中心技能：書く、話す、聞く</p> <p>「ジェームズ先生に日本の文化を伝えよう」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>テーマについての知識を深めるために、インターネットで調べ学習をする。</li> <li>グループごとに発表の目標(big voice, smile, pronunciation など)を決め、グループで協力して一人二文以上の発表原稿を作成する。</li> <li>目標達成に向けて、グループで発表の練習をする。</li> <li>グループ間で発表を見合っ、お互いにアドバイスをする。</li> <li>各グループが発表し、代表生徒がALTからの質問に答える。(本時 14 / 14)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>テーマが決まらないグループにアドバイスをするために、テーマを考えておく。</li> <li>グループワークに参加できない生徒には、英単語を調べることで貢献できるようにする。</li> <li>写真や物を使って発表することで、英文が難しくならないようにする。</li> </ul>

6. 本時の指導

(1) 目標

- ・グループでつくった日本の文化に関する発表に積極的に取り組むことができる。
- ・各グループの発表を聞いて、その発表に対して適切な評価をすることができる。

(2) 準備 T : ワークシート バインダー 掲示用資料 電子黒板 ビデオ 発表用マイク スピーカー  
S : 写真 発表用の道具

(3) 学習課程

段階	生徒の学習	○T1 の支援	○T2 の支援 ※評価
導入 (5)	1 ペアであいさつをし、本時の活動について知る。 What day is it today? What's the date today? How is the weather today?	○活動を確認しやすいように、活動内容が書かれた用紙を黒板にはり、説明する。	○生徒の意欲を高めるために明るく大きな声であいさつをする。
展開 (40)	2 発表の練習をする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">グループで最終練習をしよう。</div> ①グループのめあてを確認する。 ・大きな声で感情を込めて発表する。 ②グループで練習をする。 ③お互いにアドバイスをし合う。 ・もっと大きな声で話そう。 ・ゆっくり話したほうが伝わりやすいよ。 ・笑顔で行って表現力豊かにしよう。 3 グループごとに発表する。	○各グループのめあてを確認しながら机間指導をし、めあてを意識していないグループに声かけをする。	○机間指導をして、各グループの発音や英文に間違いがないか確認し、間違いがある場合は範を示す。
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">Let's tell James about Japanese cultures.</div> ①グループごとに発表する。 ②T2の質問に対してグループの代表が答える。 T2 What do you eat during the festival? ③発表を聞いて、各グループの良かった項目を個人で評価し、その後、グループで話し合っってその札を提示する。 (Big voice, Gesture, Smile, Emotion, Pronunciation, Rhythm) S1 I will tell you about club activities of our school. S2 We are members of each club. We have baseball, canoe, soccer, tennis, basketball, volleyball club and so on. S3 We have to go to school at seven to practice. We have club activities after school, too. S4 We practice weekend. We are very tired. But We love our club and members.	○ALTの質問の意味や答え方に困っているグループに対して、ヒント与えたりアドバイスをしたりすることで、どのグループも答えられるようにする。 ○発表で写真を使うグループの画像を電子黒板で映す。	○発表を終えたグループに対して、内容に関連する質問をするとき、既習の文法と単語を使うようにする。 ○発表者が達成感と自信がもてるように、発表後に英語で良かったところを伝える。 ※グループのめあてを意識し、相手に分かりやすく伝えようとするのができたか。
まとめ (5)	4 本時の活動を振り返り、ワークシートに記入する。 ・グループ1は、とても表情がよく、内容も分かりやすかった。 ・グループ2は大きな声で堂々と発表することができていた。	○グループではなくて、個人で良かった人とその理由を発表してもよいと伝えることで、より多くの生徒が挙手できるようにする。	※各グループの発表を聞いて、適切な評価をすることができたか。

(4) 評価

- ・自分の役割を果たすことで、グループの発表の内容をALTや級友に伝えることができたか。(活動の様子)
- ・各グループの発表を聞いて、それぞれの発表の適切な評価をし、グループの話し合いに積極的に参加することができたか。(活動の様子・発言)